

誰もが楽しめる「体育」の授業実現を目指した教育実践記録

川崎百合香^{1, 2)}

Educational Practices Aimed at Realizing Physical Education Classes Enjoyable for Everyone

Yurika KAWASAKI^{1, 2)}

本稿は、筑波大学と鹿屋体育大学による博士課程・大学体育スポーツ高度化共同専攻の必修科目として開講された2024年度「大学体育論」全10回のうち、木内敦詞教授担当の7～10回目の授業で作成したティーチング・ポートフォリオ・チャート（栗田・吉田，2021）およびその後にレポートとしてまとめたティーチング・ステートメントを整理し、「簡易型のティーチング・ポートフォリオ」として報告するものである。本稿では、東京都市大学FD推進センター（2020）「ティーチング・ポートフォリオ成果報告書」における都市大型ティーチング・ポートフォリオに倣い、「はじめに，1 責務，2 理念，3 方法，4 成果，5 目標，おわりに」の枠組みで執筆する。以下では，ティーチング・ポートフォリオをTP，ティーチング・ポートフォリオ・チャートをTPチャート，ティーチング・ステートメントをTステートメントという。

はじめに

筆者は2022（令和4）年3月より，福岡大学スポーツ科学部の助教として勤めており，学士課程における共通教育の「保健体育科目」である生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ（1年次必修）や，保健コース（通常のスポーツ活動が制限されている学生を対象としたクラス），生涯スポーツ演習Ⅳ（2年次選択）等の授業を担当している。

1. 責務

2022（令和4）年～2024（令和6）年（現在）までに担当した科目や教育活動は表1の通りであり，授業では，共通教育の「保健体育科目」である生涯スポーツ演習（スポーツ科学部以外）を担当している。また，学部（スポーツ科学部）で開講されている授業の補助（ダンス・体づくり運動・教育実習事前事後指導）や教育活動（教

1) 福岡大学スポーツ科学部

Faculty of Sports and Health Science, Fukuoka University

2) 鹿屋体育大学大学院体育学研究科および筑波大学人間総合科学学術院・大学体育スポーツ高度化共同専攻

Joint Doctoral Program in Advanced Physical Education and Sports for Higher Education, Graduate School of Physical Education, National Institute of Fitness and Sports in Kanoya, and Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba

表 1. 担当した科目および教育活動（2022-2024 年度）

	2022年度	2023年度	2024年度
担当した科目	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツ演習Ⅰ（1年次必修） ・生涯スポーツ演習Ⅱ（1年次必修） ・保健コース（通常のスポーツ活動が制限されている学生を対象としたクラス） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツ演習Ⅰ（1年次必修） ・生涯スポーツ演習Ⅱ（1年次必修） ・保健コース（通常のスポーツ活動が制限されている学生を対象としたクラス） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツ演習Ⅰ（1年次必修） ・生涯スポーツ演習Ⅱ（1年次必修） ・生涯スポーツ演習Ⅳ（2年次選択） ・保健コース（通常のスポーツ活動が制限されている学生を対象としたクラス）
授業補助	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス ・教育実習事前事後指導 ・教職事前実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス ・体づくり運動 ・教育実習事前事後指導 ・教職事前実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス ・体づくり運動 ・教育実習事前事後指導 ・教職事前実習
教育活動及び業務	<ul style="list-style-type: none"> ・教職関係 ・ASASPO倶楽部運営 ・入試補助員 ・教員採用試験対策（ダンス） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職関係 ・ASASPO倶楽部運営 ・入試補助員 ・教員採用試験対策（ダンス） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職関係 ・ASASPO倶楽部運営 ・入試補助員 ・教員採用試験対策（ダンス）
学外での指導	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の体育におけるダンス授業 ・高校のダンス部活動指導（1回） 		
社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・全日本小中学生ダンスコンクール九州大会 運営ボランティア・アトラクション出演の振付担当 	<ul style="list-style-type: none"> ・全日本小中学生ダンスコンクール九州大会 運営ボランティア・アトラクション出演の振付担当 	<ul style="list-style-type: none"> ・全日本小中学生ダンスコンクール九州大会 運営ボランティア・アトラクション出演の振付担当

職関係・入試補助員等)にも携わっている。なお、生涯スポーツ演習Ⅰはニュースポーツを多く取り入れた授業内容であり、生涯スポーツ演習Ⅱは、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、テニス、サッカー等の競技種目を取り入れた授業内容である。2023年度の生涯スポーツ演習Ⅱでは、卓球、バドミントン、テニス、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、サッカーの授業を担当した。本TPでは、共通教育の「保健体育科目」において、2023年に担当した生涯スポーツ演習Ⅰ及びⅡ、保健コースについて記載することとする(図1)。

2. 理念

私が生涯スポーツ演習Ⅰ及びⅡや、保健コースの授業計画を実施する中で、最も大切に行っていることは、技能の習得を中心とした授業ではなく、「スポーツを楽しむ」素養を身につけることのできる授業づくりである。そのために以下の3点を学生への想いとして、私の教育理念としている。

理念1:「スポーツとの関わり方を選択できる力」を身につけてほしい

授業では、様々なスポーツ体験を通して、各種目の特性や価値を理解し、それぞれに合ったスポーツとの関わり方を選択できる力を身につけてほしいと考えているため、様々な種目の紹介だけではなく、そのクラスに合わせたルールの変更や、練習方法の工夫を行うことで、新しい気づきが得られる授業にしたいと考えている。

理念2:「多様性を受け入れて尊重できる人」になってほしい

生涯スポーツ演習Ⅰ及びⅡ、保健コースでは、男女共習で授業を実施しており、中には年齢の異なる学生や合理的配慮を必要とする学生もいる。授業を通して、他者とのコミュニケーションやスポーツ活動を経験し、性別や年齢、障がいの有無等に関わらず、「誰とでも」スポーツができる楽しさを知って欲しいと考えている。

理念3:「積極性・自主性」を高めてほしい

授業を通して、学生が自分の考えを言葉にでき、積極的・自主的に行動できる人になってほしいと考えているため、一方通行の授業ではなく、共通のルールを伝え、学生自身が考えたり、

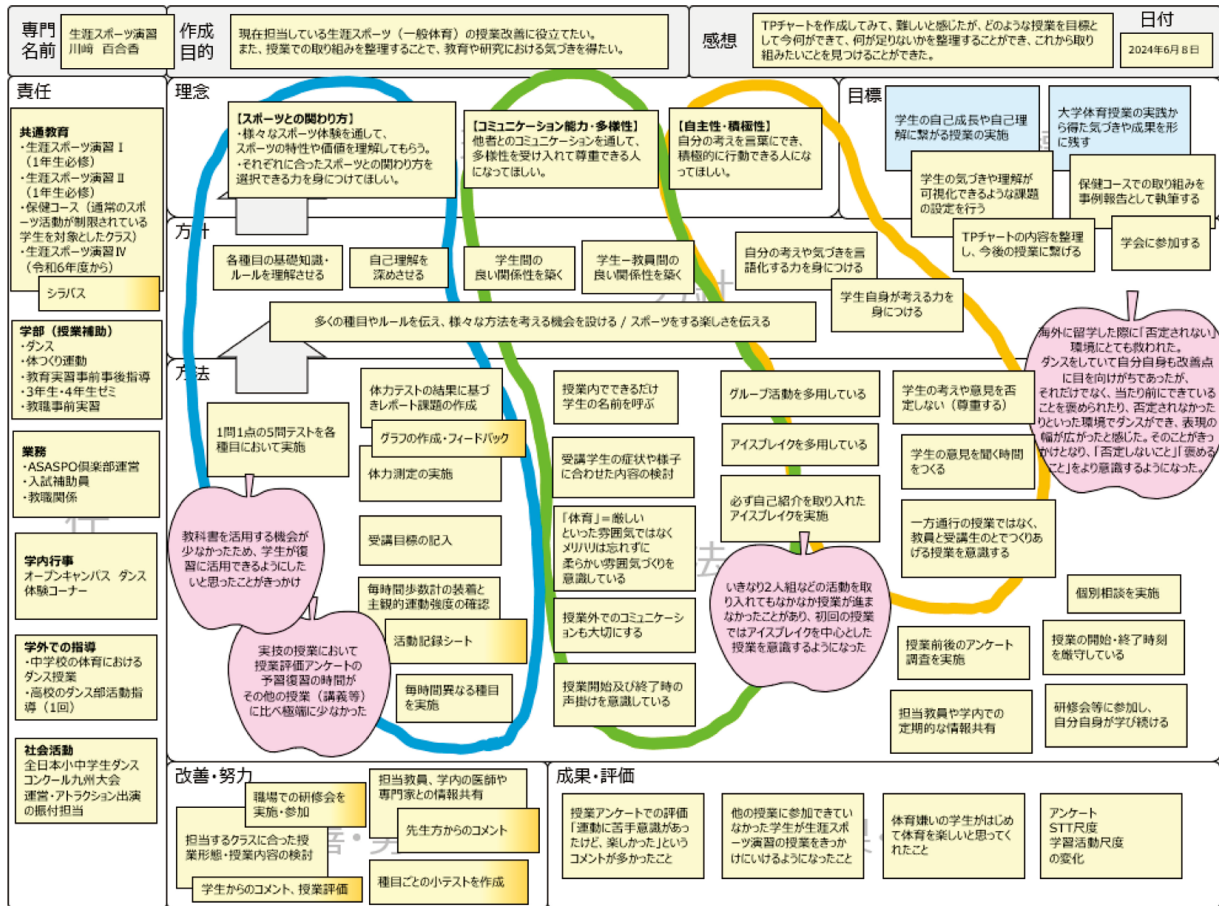


図1. ティーチング・ポートフォリオ・チャート

お互いに声をかけ合って取り組めたりすることができる授業づくりを心がけている。また、スポーツを通して、その場に応じた行動や発言ができ、教員に言われたから行動するのではなく、教員に言われなくても行動できる人になって欲しいと考えている。

3. 方法

生涯スポーツ演習Ⅰ及びⅡの授業は、全学部一年次必修であるため、はじめて対話する学生同士が多い。そのため、円滑なコミュニケーションを促すアイスブレイクや自己紹介ゲームの活用を意識している。また、すべての授業において、誰もが楽しんで取り組めるよう、担当クラスの状況に応じて種目の選定やルールの変更を行っている。

方針1：各種目の基礎知識・ルールの理解や、自己理解を深めさせる

- ・授業のはじめにクイズ形式で復習を行う（生涯スポーツ演習Ⅰ及びⅡ）。
- ・1問1点の5問テストを各種目の最終授業日に実施する（生涯スポーツ演習Ⅱ）。
- ・実技授業開始前に体力測定を実施する（生涯スポーツ演習Ⅰ・全クラス共通）。
- ・毎時間歩数計の装着と主観的運動強度の確認を行う（保健コース）。

方針2：学生間及び学生－教員間の良い関係性を築く

- ・グループ活動やアイスブレイクを多用する（生涯スポーツ演習Ⅰ及びⅡ）。
- ・受講学生の症状や様子に合わせて、授業内容及び授業形態を検討する。
- ・学生を呼ぶときは、名前で呼ぶことを意識する。
- ・肯定的な声かけを意識する。

方針3：学生自身が考え、行動できる雰囲気づくりを意識する

- ・学生の意見を聞くことを意識する。
- ・学生の考えや意見を否定しない。
- ・学生が提案してくれたルールの変更等について、安全面を確認し、実施できる場合は取り入れる。

以上が教育理念の実現に向けた方針と具体的な方法である。これらの方法を実践していく中で、考案した試合のルール等の中から一つの例を紹介する。生涯スポーツ演習Ⅱでは、卓球、バトミントン、テニス等のダブルス競技を含む多様な種目の授業を担当しており、ダブルス形式の授業では、2人組を自由に決めさせた場合、毎回同じ組み合わせになってしまう可能性が高い。また、アイスブレイク等を活用してペアを決める方法もあるが、1回の授業の中でできるだけ多くの人とペアになる方法はないかと考え、図1の方法を用いて授業を実施した。

このように、共通のルールを理解し、ゲーム要素を取り入れて試合を行うことで、学生同士が声をかけ合って取り組む様子が窺えた。

4. 成果

昨年度（2023年度）の学生からの授業評価アンケートでは、学んだことに関する自由記述欄にて、「基本的な技能やルールを学べた」、「スポーツの楽しさを知った」、「体を動かすことの大切さを感じた」等の記述や、「誰かと一緒にスポーツをすることの楽しさを感じた」、「コミュニケーションの大切さを感じた」等の記述が多く見受けられた（表2）。また、「体育は元々得意ではなかったけれど、授業では楽しく取り組むことができた」といった記述や、「運動に苦手意識があったがやってみたら意外と楽しかった」、「運動は苦手だけど諦めない心をつけることができるようになった」等の記述もあり、運動や体育に苦手意識のある学生においても楽しんで授業に取り組んでもらえたことや、スポーツを通しての学びを感じてもらえたことから、「スポーツの楽しさ」を授業の中で伝えることができたのではないかと感じる。

5. 目標

教育活動に対する今後の目標は、「スポーツ

ダブルスビンゴ大会

学籍番号 () 氏名 () ゼッケン番号 ()

青1	黄4	青6	緑3	赤4
赤2	緑5	赤5	青3	緑1
黄6	青2	赤1	黄2	青7
緑4	赤3	黄3	青5	赤6
黄1	緑2	青4	黄5	緑6

チャレンジした数（総試合数） ()

試合数を正の字で記入（負けた数も含む）

手順

- ①学生に記入させる前に出席者とゼッケンの数を確認する。
- ②用紙を配布する。
- ③ホワイトボードに記載したゼッケンの色と番号を左の表のように自由に記入させる。
- ④全員が記入後、ゼッケンをランダムに配布する。
- ⑤自分のゼッケンの色と番号を確認させ、その番号をはじめに○で囲む。

ルール

- ・ビンゴカードで○をつけた色と番号のゼッケンを着ている人を探し、ペアになって対戦相手を見つけ、相手に勝つことができれば、ペアの色と番号の記入されたマスに○を付けることができる。
- ・同じペアで再チャレンジしたい場合は、必ず1試合あけてから行う。
- ・誘われたら絶対に断らず一緒に試合を楽しむ。

青：1、2、3、4、5、6、7
 赤：1、2、3、4、5、6
 黄：1、2、3、4、5、6
 緑：1、2、3、4、5、6

※クラスの人数に合わせてマスやゼッケンの数を調整する。

図2. ビンゴゲームを活用したペア活動の例

の楽しさ」を伝えていく中で、学生の自己成長や自己理解に繋がる授業を実施することである。現在、生涯スポーツ演習の授業では、主に口頭説明やホワイトボードを用いて説明をすることが多く、学生が記録をするためのワークシートや、視覚教材等の活用は十分でないと考えている。そのため、学生が話し合いの記録やルール理解をするためのワークシート等を作成し、来年度の授業から取り入れていきたいと考える。また、より良い授業の実現に向けて、本TPのように教育成果を形に残すことを今後も続けていきたいと考える。

おわりに

共通教育の「保健体育科目」である生涯スポーツ演習の授業を実施していく中で、「誰もが楽しめる」体育授業の実現に向け、毎年改善を重ね、教材や授業内容等の検討をしているが、本TPのように形に残すことをこれまで行っていなかった。しかし、このようにTPを掲載することにより、自分自身の理念が何かを改めて整理することや、今後どのように取り組んで

いくべきかがわかるだけでなく、他者から閲覧できるものとして形に残せることの良さを感じた。今後も授業改善のため、本TPのように形に残していきたいと考える。

謝辞

本TPを作成するにあたり、ご指導いただきました筑波大学・木内敦詞教授、意見を交わした筑波大学人間総合科学学術院および鹿屋体育大学大学院体育学研究科・大学体育スポーツ高度化共同専攻学生のみなさまにこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

文献リスト

栗田佳代子・吉田 壘：リフレクションを可視化するティーチング・ポートフォリオ・チャート作成講座。医学書院，2021。
 東京都市大学FD推進センター：2020年度ティチング・ポートフォリオ成果報告書，online。 <https://www.tcu.ac.jp/tcucms/wp-content/uploads/2021/03/20210325-605c90e9d057.pdf>

表2. 学生からの授業評価（学んだこと）

理念・方針	学んだこと（自由記述・複数回答）	回答数(件)
理念1 「スポーツとの関わり方を選択できる力」 方針1 「各種目の基礎知識・ルールの理解や、自己理解を深めざる」 に関係のある記述	各種目の特性やルール・技術	38
	運動・スポーツの楽しさ	54
	体を動かすこと（運動）の大切さ	27
理念2 「多様性を受け入れて尊重できる人」 方針2 「学生間及び学生－教員間の良い関係性を築く」 に関係のある記述	誰かとスポーツをすることの楽しさ	27
	スポーツを通じた人との交流	18
	コミュニケーションやチームワーク（協調性）の大切さ	41
理念3 「積極性・自主性」 方針3 「学生自身が考え、行動できる雰囲気づくり」 に関係のある記述	積極性・自主性に関するもの	6
	雰囲気づくりや声のかけ合いに関するもの（励まし、アドバイス等）	14
その他		25